

『おはなしコンサート』 今年度最終

1月29日(火)が今年度最後の『おはなしコンサート』でした。今回は、定番となった「四季の歌」に続いて、「手話で干支を表す活動」からスタートしました。12の干支の特徴を捉えた手話で、思わず「なるほど!」とうなずいてしまいました。次の「いつもいっしょに」の絵本では、「いつもいっしょにいられる幸せって、どういうことかな?」ということをおはなしを聞きながら、みんなで考えました。これは、次のようなおはなしでした。

くまさんとうさぎさんはいつもいっしょ。くまさんは、うさぎさんのために料理を作るのに、とってもやりがいを感じていました。でも、「おいしい?」と尋ねても、いつもニコニコしているばかり。ある日、くまさんは、ついに言っていました。「笑ってばかりいないで、なんとか言ってよ!」うさぎさんは目にいっぱい涙を浮かべてしまいました。次の日、くまさんが目を覚ますと、隣にいるはずのうさぎさんがいません。くまさんはがっかりして、「あんなこと、言わなきゃよかった。」と後悔します。それから少しして、本当に目を覚まします。ふと隣を見ると、うさぎさんはいました。うさぎさんがいなくなったのは夢だったのです。ホッと胸をなで下ろしたくまさんでした。

どの学年の子どもたちも、じっと聴き入っていました。続いて、「節分の歌」「おにたのぼうし」の歌やおはなしを楽しみ、最後は、ピアノ演奏「花は咲く」にじっくりと耳を傾けました。

この後、各学年の代表児童から、「友だちは大切だなと思った。」「大切な友だちにひどいことを言うてはいけないと思った。」「花は咲く」のメロディーが心に残った。」などの感想が寄せられました。そして、進行役のK.さん、蒼さんが終わりの言葉を述べ、児童代表のY.さんが、全校のみんなからの感謝の手紙をお渡しし、今年度の『おはなしコンサート』の幕を閉じました。

読み聞かせ、歌や楽器の演奏、手話や英語など、1年間本当に心温まるいい時間を過ごすことができました。来年もどうぞよろしくお願いいたします。



【おはなしコンサートのみなさんへ】 (一部省略あり)

◇おはなしコンサートのみなさん、4月からいまでたのしいおはなしをたくさんよんでくださり、ありがとうございました。ぼくは、エプロンシアターの「三びきのやぎのがらがらどん」がおもしろかったです。また4月から、たのしいおはなしをきかせてください。本とうにありがとうございました。(1年 A.さん)

◇私は、いつもおはなしコンサートを楽しみにしていました。倉持さんのピアノでは、歌とピアノの音色が合っていていつも楽しく聴かせてもらっていました。手話をやるたびに上達していくのがうれしかったです。エプロンシアターでは、エプロンの上でいろんな物語を表現できてすごいなあと思いました。……昔話では、私の知らない昔話を話してくれるので、どのような展開になるのか想像しながら聞くことができました。今年もありがとうございました。(6年 O.さん)

ありがとうございました

K.さん(代表)
S.さん(読み聞かせと歌)
K.さん(ピアノ)
T.さん(手話)
A.さん(クラリネット)
T.さん(英語)
F.さん(昔話)

楽しかったスキー教室

今年の全校スキー教室は、好天に恵まれ、絶好のコンディションのゲレンデで、気持ちよくスキーを楽しむことができました。途中で休憩に来る班もなく、充分に「雪国の楽しさ」を満喫することができたようです。11名の保護者の方々、5名の角館スキー連盟の方々のご協力のおかげで、充実したスキー教室になりました。ご協力くださった皆様、本当にありがとうございました。



福祉・高齢者体験(1/25 4・5年生)

4・5年生は、総合的な学習の時間に社会福祉について学習しています。この日の5校時は、社会福祉協議会の方々においでいただき、高齢者の体験をさせていただきました。「膝が曲がらない。」「腰が伸びない。」「周りがよく見えない。」「耳が聞こえにくい。」などという声や、「ほら、こっちだよ。」「大丈夫?」といった声が、あちらこちらから聞こえてきました。「実際に体験してみて、改めてお年寄りの大変さが分かった。」「これからは、ぼくたちが高齢者を支えていけるようにがんばりたい。」など、体験を通して多くのことを感じたようです。これまでの学習を、今後の生活の中で実際に生かし、「子どもにもできる、みんなで支え合う地域づくり」に参画していきたいと思えます。



【福祉・高齢者体験学習を振り返って～一部抜粋～】

○ぼくは、2回目の高齢者体験をして、改めて高齢者の気持ちが分かりました。例えば、常に腰が痛かったり、手足が重かったりして、自分が思ったように動かせなくて、とても辛かったです。高齢者は、目もあまり見えなくて耳もあまり聞こえないということが分かったので、これからは、困っている人がいたらできるだけ多く手伝ってあげようと思いました。高齢者の役に立つように、高齢者がやる仕事をなるべく少なくしてあげられるようにしたいです。この「福祉・高齢者体験」を通して、高齢者の人達が、毎日苦労しながら生活しているということを学びました。これからは、ぼくたちが、多くの高齢者を支えていけるようにがんばりたいです。

5年 K. さん

○ぼくが福祉高齢者体験学習をして思ったことは、おじいちゃんとかおばあちゃんは、こんな思いで毎日を過ごしているんだということです。ぼくが体験してみると、手が重くて、ひざはあまり曲げることはできませんでした。実際にかいだんやハードルをまたいだり歩いたりしてみると、ひざがあまり曲げられないし、背中が曲がっていて、歩くことがとても苦しかったです。ぼくは、おじいちゃんやおばあちゃん達がこまっていたら、手伝ったりしていきたいです。

4年 O. さん